

一九世紀ヨーロッパにおける人工世界の表象
— シャルル・バルバラの『ウィティントン少佐』を中心に



ルイ＝シャルル・バルバラ (Louis-Charles Barbara, 1817-1866) はボードレールとの交友関係や写実派運動の文脈で名前が挙げられることが多いが、一般にはそれほど知られている作家とはいえない。バルバラには“Le Major Whittington” (1858, 1860) という中篇小説があるが、本講演では、その小説のテーマと骨子を紹介しながら、当時のフランスでの科学・技術的表象、とりわけ居住環境、召使い、食物などのすべてを技術的に合成し、人工化するという目的に純化した存在としての少佐のありかたについて、考察を加える。さらに、人工物を構成するという技術活動がもつ人間学的な意味について、やや一般的な視点からの注釈も付け加えたい。

2014年3月17日(月) 15:00～17:00

会場：東京大学駒場キャンパス
18号館4階コラボレーションルーム1

講演者：金森 修

講演者紹介

東京大学大学院教育学研究科教授。パリ第一大学哲学博士。

専門は哲学・科学思想史。単著として『自然主義の臨界』勁草書房 (2004)、『科学的思考の考古学』人文書院 (2004)、『(生政治)の哲学』ミネルヴァ書房 (2010)、『動物に魂はあるのか』中公新書 (2012) など。また編著に『エビSTEMロジーの現在』慶應義塾大学出版会 (2008)、『科学思想史』勁草書房 (2010)、『昭和前期の科学思想史』勁草書房 (2011)、『合理性の考古学』東京大学出版会 (2012) など。第12回渋沢・クローデル賞 (1995)、第22回サントリー学芸賞 (2000) などを受賞。

- 主催 日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究 (B)
「科学の知と文学・芸術の想像力
—ドイツ語圏世紀転換期の文化についての総合的研究」
(研究代表者：鍛冶哲郎)

- 問い合わせ先
東京大学大学院総合文化研究科・鍛冶研究室
〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
E-Mail: wissen@phiz.c.u-tokyo.ac.jp
<http://phiz.c.u-tokyo.ac.jp/~wissen/>

アクセス：井の頭線 駒場東大前駅下車

